Kodak Color Control Patches

© Kodak, 2007 TM: Kodak

Blue Cyan Green Yellow Red Magenta White 3/Color Black

Kodak Gray Scale

C Y M

© Kodak, 2007 TM: Kodak

A 1 2 3 4 5 6 M 8 9 10 11 12 13 14 15 B 17 18 19

畫圖俳諧三階興

東都 式亭主人三馬著
歌川豊國畫

春

俳優畫圖三階興

自序

如何祖師西来意楊ち緑花ち紅の串童牡丹。
念戯無性と戯ゝ五戒を更に構ふ其執邪。
遊廓さんざと君挙歌妓如意ふとあ〳〵てを。
直指の精指酒々人心を和〳〵留の乳狂。
不立今節は詩怙みい九季なんぞや邪。
色即是空と悟とあるを八空〳〵是色と。
見倡成俳の卧房は情豈大悟の眼ふ。

及まりんや。怎生麼大戲場優首は坐斗尭小吾く。
戲房の壁上に看殺行厨器の座禪豆空く寂く
の賣茶飯。禪十二因縁を説ごとく。両脚が屈曲し
被教坊大王詩を看場の毒言ふく肉果ハ輪田
老大機関ぶん。生前馬兒は後御を現在連三角欽
乃外套を破る。未来哉方の鼓兒を撃夫面く
此を想ふ。閑場の蠻戲。沖場長煙花粉黛
終場の叱姦罵説を即現世過去未来。都合を
三世の三坐勾攔。彼欲界は副淨。色界の演妻戲

生且。元色界乃蒼鶻科諢。は閑講の末より。雜近
應有く。三塔大穿世界定。編戲文漢が院本眼藏の。
讀青布来無東。青紙白席の二棚ハおろ凡る
ごとく人山人海。遠方衆生ハ拂ふを放下。近ハ
便る縁覚に悟故十方は衆看人東抓西尋布扇
踏ふ。元溶踏ふ通ふ鼓門道ふ。迷故三塔
素臉の寫真。西土人の題號を借ア。
小説ハ笠翁卓吾ふ異ふ。在下が乖巧
全然ふ無き無の見ふ。ハバ禪納の白ア

磨麺唱て衆生を度し優魁乃白拍子八庚曲ふく
せるの見佛聞法を下と其ふ小曰三ゐ仏若と
ゝ乃も理や生死流轉去ゝ速扮して鳥呼雅口呼雅
ゐゝれ伶優の才子風流勾欄の在行ゝ止坊
夫戯貨ゝ花ゝ紫ゝ銀箔乃月八曇ゐ
のゝ見ゝ物ゝ帝ゝ香ゝ赤ゝ朱雀棚ゝ悠然ゝ
三角紙の雪ゝ脇壁あけゝ観法の床ゝ座さ八主言寄語
譬喩方便賛佛衆ゝ因縁ゝ悟ゝべし無愁の
浪皮六塵の方罫場ゝ猶豫放逸ゝ白看的五
欲の對臺棚ゝ狼狽ゝ知識者院子に道を問
ゝも本覚ゝ弊樹ゝ悟ゝ難ゝ吁
真個迷心ゝ悟道ゝ両个衙衙浮世ゝ茶坊
乃ソレ小二五手ゝ鄉番ゝ酒提ゝ
ゝ爾維嘗寛政庚申乃霜月喜演戯
發談ゝ須書屋ゝ雰小應ゝ

式亭三馬戯

俳優三階興附言

切落しまとけ序　凡例

○嚮に俳優楽室通一篇を著述せしに幸にして行る。一日俗物書林の欲心坊予が草盧に来りて拾遺を編ん事を需む。閑辞して曰く和漢の群書汗牛充棟の其聖賢の貴き書といへども後編の前篇に勝れる事とてはまれなり。此巧案大きに不出来くよくあつかへれば板元も徳をふくまさで帰りしが此年の秋はじめ歌川豊国をつれて役子素白の写生をもちて再び来りて予に題及び小説を編録せん事を乞ふ。巻を開くに大に笑ふべし。予板元肝をつぶせる顔色にて先生此画帖を閲して何ぞの可笑あるや。答云、左にはあらねど足下志る所や似白は絵の祖なる古人勝川春章、役者夏の富士　通笑著　全一冊　といへる書をもつて当世ふ

書更に丹青を加へたる所も見えと又古しと言ん赤面に成て額に筋張とあかりし不便なり。新角頼み来て新作を請へども秘蔵を板下に悪名を附させて了簡が成まいれどもおかしかしも言はせぬ所に採が一生懸命の才を揮て新作を書ても楽屋落でも世上へ売出あまりの文盲で古の物を焼なほしたと切落に向て第一とする故に売買の事が見えまいといふござらぬ。智者も千慮にて一失あれば愚者にも一得ありとやらいへば、なんにもせぬ学問あればこそふずれば異顛にかけはらせてるも高き戯作者同士も書なんてふ事を書ちらし筆根の風来子は後世に美名を残すを理の大業と夫れやたよんで新古をいふとも、ハテちんぷんでも売る方もとつかぬやつらの書ふれ更に一句も出そとも最よりも序に継ぎ一部の書なりんぬ。

○見られる物は之れの乗るこゝろ清女の言葉にもとづきて役者
素顔の写真とあるは先年物故したる市川六代目三蔵
等の歌妓國の島巡と附録を貢献を讀本の和花
蘭よりさらに俗よりさらに小説くさしばし書はく
時夜語の極もまた見しかん。表紙仕度は芳と休まるべ角
ら必ずとなるべきもの友あるべし。

○役者裏の富士の初懸ふたしく三座手拭と初八眠獅 嵐雛助 吉田屋 成田屋
と改名されし盛に終る見先年故人雛助江戸下りの節夏の富士
の老尾ものの以渓へ。

○役者附の例を使てもぐくる
くるくるくるくるしこうしたるたつをせる拭通を見るにあるべ
東ち舞まるして去年の國の境をみん時鼻が高きや雲千

部と覚える田夫野娘あるは相撲助高屋の分ての絵
時家老よりの長中車の皆出を延を尾をお屑さる近今の
役者のいさるしたる見安くんぐるる

○役者上中下混雑して次第と名づけ勿論拔合全くねば
當時休座或を旅行或は脱漏する役者最さるるず。
拾遺三階鼠やめるくるちん委くもとに故きもとるく
舞其玉扇裏付富士。朱玉通手図

○深村訥子と結め大江戸店取立の役者近き負越り
浪兼新町の盛二葉をもを餘を推て

○寸善全部成ル二ヶ手。故障あるく出版
杜若鱗、蘭耕中村の單脱を没きしく改めて
殊に高名の役者をしば世あるけ画本をらぬく

名人上手は俗とおぼえんと作者ゑ一代の老婆ゆゑ

例尾　新下り役者のゑ来春早く出如へ可申候上

八文舎流

けまるで子お耳にへ孟本

来戌の正月二日より賣出し申候

歌舞妓訓蒙圖彙

全部五冊繪入讀本

東都畫巧寄合書

式亭主人三馬著

京都大坂の戯場を八文舎自笑ゑ漫く更ゑ言ふ東都三座の劇場は一箇所國ゑ見立て唐土訓蒙圖彙ゑ比し部類と乾坤時候より始く數量言語ゑ迄十三門ゑ分ち東都浮世繪の諸名家ゑ需く細畫を委く加く傍ゑ戯文の注ゑ付く古今ゑ通ず先賢ゑ諸説と国風ゑ考へ書して億説と子ゑ賓ゑ戯場の大全見功者ゑ愛の辯疑なり芝居通ゑ君子見ざんばあるべからず

板元

式曲商音彩演戯午宮興亥陽員

數聲越調糅點茶百年離合悲歡

森田又吉
坂東三津五郎

中嶋和田右門
中山富三郎
桐島儀右門

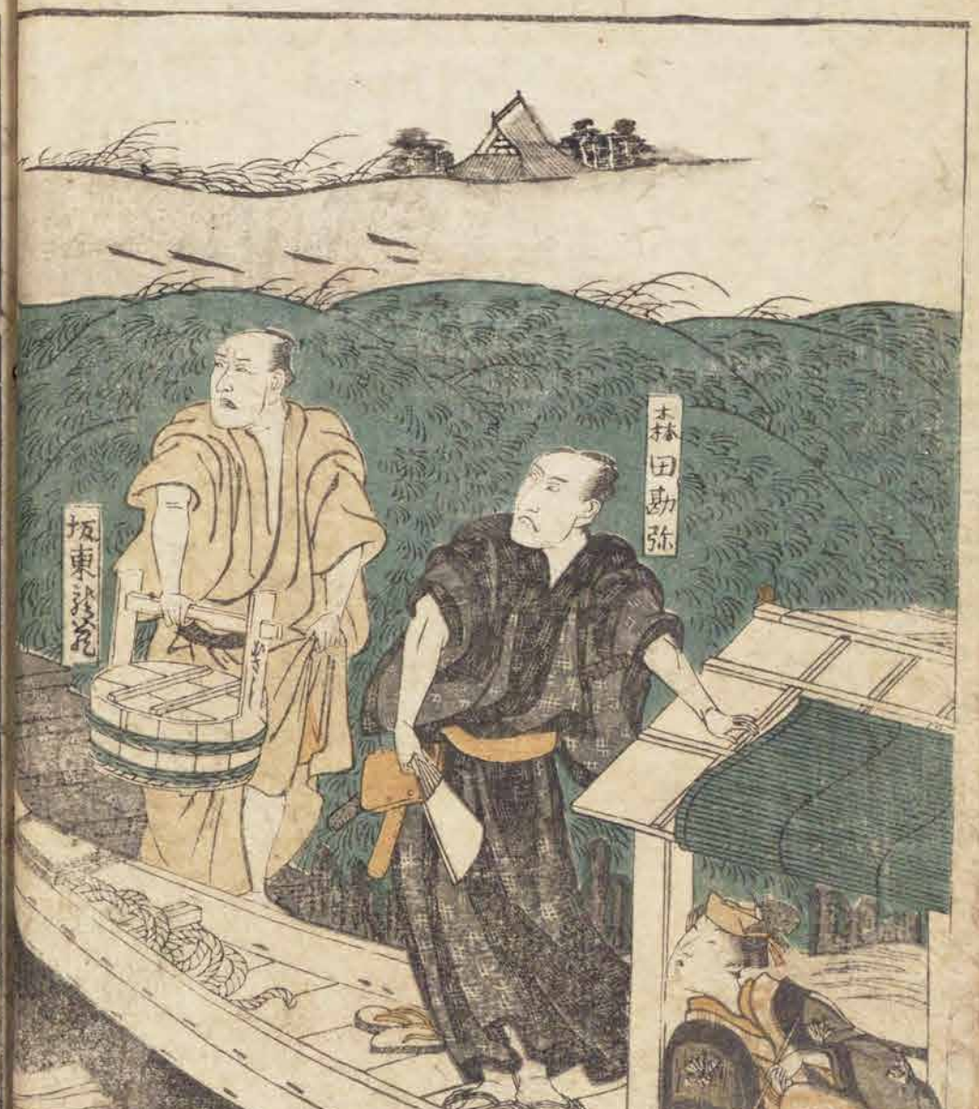
市川八百蔵
桐の谷門蔵
東蔵

市川團作
市川團作

相
扇蝶
中村勘三郎
岩井喜代太郎
嵐三八
三津五郎改
荻野伊三郎

富木豊前太夫
瀬川菊三郎
市山七郎
瀬川菊之丞
瀬川菜之助
市山七郎

坂東大吉
宮崎十四郎


坂東彦三郎
森田勘弥

松本國五郎
松本小次郎
尾上松助

尾上伊三郎
中村壽七

坂東彦三郎

山下万菊

坂東鶴十郎

沢村宗十郎

侃優三階興隆録

東都市隠　式亭三馬著

夫戯場は太平代の賑ひ人和の道ゆゑ切善徳の恵の
器なり又孟子に世俗の楽は先哲の賞辞なり其初紀
元漢文帝の時坊元端の日切者よりくくの者共せうそう
こをり域の神和合天王戸隠の山上雷門常闇の後車舞
の方は庭火を焚く若品大勢を引き岩戸神楽の幕内
より芸の号の出現して大下をかく
そしより三三国れ三国くくの角くの芸能技手力雄と
名のりて山岩戸をこじ押開きと天照皇大神御手を
引くの縄を引き流してあんご幕内より出て神
代の大あらそしより神楽申楽因楽とて

先さ[illegible]
いるとか者書ままくしまの男名を三たくかくひく
男女のおまりて名を和しいまを技芸ぶんど
いつまふく氣お巳くくるくて芸能くいる名も出来くく
名まくくくこの三千歳万化して拍子を揃へ揃と拍子
三ッは大せられ紅葉間いくんくく敷く名くくれ役者を熟考浮
甲乙と爭ひ見負髪法楽と會く初日の出と競ひ就中吉名
の徳とくて後世よ祝ひて者三三と奉くくふしく
深小き夫鹿子吉糸結ひ古み流りて早くくふ
役者の名ある艾ふ四百四病ハ[illegible]更負の病も
産の汐のかんだくく石くく共て直くく莨ば嗅鼻も因
[illegible]を出ハ[illegible]或々因すくくふ隙岩井掃部
留高羅左衛門井拳くおのく名誉成今よりもくく普ぶ

今の今こそ鬼もひしぐ豪傑あり東夷南蠻北狄西戎異
八荒天地乾坤のそれ〴〵にある人ども志る役者の魁首沢香ら鳥のこゑ
かの都お江戸市川の藝名元祖才牛より連綿して六世の孫大
極上〻無類藝顔にて此道の掃着あり五代目の市川蝦蔵が
の名を白猿さとりし年世をのかれし牛島にのがれすみしおのが
氣儘の勇なる連俳を語屑のごとくに吐きちらしつ文机によりて
ハ雪のおもむきとおもひ墨田の流れに枕して木母寺の名に
にひとしき秋葉の山にわけ入てさうさうじと霜ふみおもひ三囲
の御手洗に耳を洗ひて常に盤上をもて老をやしなふいと高き橘中の
仙とつても宮に及ぶらし鳴呼此人ありて此子あり実子団
十郎を相續して即六代目之容貌美麗の壮夫宋玉も恥び
ところて隣の国へけ込て彼色男の業平もすへてこの名の
しづく定て恥をのさしたるて骨を折るの甲斐さへあらし柿渋

贔屓の徳なるより翁屋の浮瑠璃因に重りの恩に生世話のひいき
し汲今団十となりてもやはり其芸風和東順夫性大物の役柄
あり好ぐ書画を好びみな書し五日落冠の坐頭株是なや
古今稀なしいらん古招莚の再誕か成田の不動の化身かと
世こぞりて贔屓する人山をなして發句おくるもの色紙より
も價て登るゝ扇画の揚枝さしをお伴者の尾上どのの面影
なん秘藏されしがお局の岩藤ならで似顔絵をかんそいさつら
に心をとられて部屋方若衆ハ寧一ツでもよい樂屋もかん紋のかんざし[illegible]
ら人銅行燈の光あるらんめしく回しくおもひそめしよりお家の狂言[illegible]
ハ作り出しの銀煙管よりもてや新妓の煙包[illegible]
落もいましむ浴衣の色に染安き歌妓の細腰[illegible]
緋縮緬の腰帯しめつるんお乳母の欄に虎とりて娘[illegible]
に契りし金の時画の鶴ハ頼朝公もまつてあり[illegible]

家の懸子針に費長房も乗こしさしうの狂言といふべ
形を切幕の内に有て一声笛く本高砂をうたひくやまぬ
ありしやの若旦那侠客の眼脅に絵師の像を雕ばうし
切てる所脆の猪熊入道もうこの絵好に等しく鯉の滝
昇を貶に誇のごく吟ずる声色にきく人雲を起し嘯ける
虎やの英雄あれば風を生ずる国柳絮あやしれ出格子(呼い
るあり因舎門者の江戸見物いづれ国十郎を先として遊
人るお様の蒐子毋を弁南の焼飯に見に浅し案内者
ぐこの弁負侵に鼻の高さこ牧孫を求く見が守り代参に対し
息災延命一生ともあお秘抜に物産に住めば都も鄙人も夫浦上
下おうまして感ぜれ者こそうりれまるに去りし赤の喜祝
父の性三回忌として助六の初役を勤ぐらしふこの時者のこ
一ぢ祖父の使国下にるぐ〜再び開く元道のまんうう

風樹をうてぶ切ぐ〜海もこのうのさんるる忠臣義の狂言も歩
つぐさて大高りすぢに赤の夏のうるぐうおりふぐ風の花新
仏ちぶ大江戸の品貝連お姫さまあく花愛海ふくまま湯
者名法の神や佛(歩とこび行車快きのさしうのくと祈る
心も添艸のせりうぐでお百度に通も更よいとうしてて氣を強
護符の利益ぐにおくり哀を三井や凡れらぬ水の筋流に
はぐさうの清安さ足洲なりしあ雨方の加持祈念名
医し術とつせぐ天ぐり孫の薬艸ぐう河羅鹿板ぐまう黄帝
の昇天に黄龍の鼻毛の抜ぐごく張ぐうぐ世に張ぐあ命
ふ効の縄も繋ぐ小ぐ陣魔の利鈍に病の根を断ぐ
良剤の験もこのあ小ぐ皐月の中の十あまく
暁ぐ先今生ぐ是限ぐ
廿二年の早替りとすて法の元道ぐう西の楽玄引ぐ自ぐ

あゝ定業の役廻りとハいへどもナンマイダ名残あんまり君ひじやないりま
せねへこん相逼の拍子木も遠ざかる有為轉變の道具立ぞ
と見る顔の[illegible]く手も今ハとゞめてつゞもなくしてもふだ
らくりとさだむるところかハ[illegible]愁傷の涙ハ五月雨の[illegible]
る[illegible]く市川の[illegible]まさりつべくそんてあかく三升よる[illegible]
ぞも欣求浄土の[illegible]に[illegible]て蓮の台頭とあるらん厭離
穢土の親玉[illegible]手向の唱名ハ現世の[illegible]に異ならず
[illegible]鉦鐃鉢の[illegible]し町讀經の[illegible]
に引導の[illegible]程に清寺に群る参
詣の男女大路に満く老若ハ教主世尊跋提河の波
[illegible]可惜[illegible]
[illegible]風情なりき

第二回

さる程に市川三升ハ夢とも形く現ともなく風雅でもなく洒
落でなく[illegible]なし此山坂を十萬億土[illegible]やまのよりや
嶮しき剣山ハ畜獄乃馬でも越せず城のさきれぬ三途川も此川止めへ
あるハ時ならぬ道[illegible]駕籠もなき一生の智恵を出して彼替紋乃
鶴丸はすがり何国ともても半天に翔上り[illegible]
の島よ[illegible]国[illegible]浪の[illegible]して[illegible]
と[illegible]和荘[illegible]翁[illegible]国より[illegible]島山
に[illegible]大千世界の[illegible]外[illegible]の別世界[illegible]其国の風土
と窺[illegible]日本で[illegible]国[illegible]
方あかく晋の始皇が[illegible]徐福[illegible]
へき[illegible]生[illegible]仙郷[illegible]人物の[illegible]
見るに木綿の羽織[illegible]草羽織を着て[illegible]
[illegible]又傍なる黒の半襟[illegible]上下[illegible]

の手拭を肩に掛くるなりとて腰に挟むなり。服引はたくさくる
なるに素足にて裾を折るもあり。また帯に尾くくり足に羊かつ
貝の口巻にするなどいろ〳〵の新形新物おの〳〵花美を事
とせども物ひの無模様は疥癬の色に擬紋の大紋浴衣
天窓を蓮がけ千ヨッキリ本因先ちらして左く捻り其の日平かて
角銀杏意匠も無意氣もさることなれど磨くに額と白和布状
草履の名も冷食といふまでらうのさけるも煙管の唇
といふて首に掛るを又右の手合羽の傘かぶり犬言声にもうるくしく呼びて
眼使けて通る性来と改むるやいまさ変の子細なるまで
ゆきこうふくに教ることあるを余国の人とうれば彼廿人
国の南風を去ることひ〳〵くに〳〵に実に草履と
かりとあでうるみて見物固辞されどもさらうゆるされ

向の茶屋の構上りて羅綾の袂もうるはしくとかざくんと琴唄よ
なるに紙帷子七尺の屏風なんぞ二尺の藩篭も躍越ゆる
る能はじ調市をゆる夏と思れ。折助覗く毒言とくふまで。
十六文の紙札を掾て馬の小便一杯二文の茶五杯二文の茶
はくるくるとなるを子とくるくるひ又て容易に寄意氏男ひ仮ふ見虚子。
なるる向の方より箱炮灯九ちん万燈よ燈あまるの人声
かまびすしく中央の乗物一挺仮法〳〵とて羽織袴と者る者。俳人
ふく俳をひ来りしがまくに閉ふ三絃の前まくに三拝九絃
て中ゝやう君を只今ものり迎てこいや我〳〵も迎れ物の人帝仮文て。
是迄四迄よ来りて心ぶくれ物よあさましゆくやくりくと大
勢の洞よ不審ハ法仮ども流石の大丈夫おしも動どで来移
るたあまさの同塾お後仮用く栃子と称くてまるちの連中三絃
お鯉の粉目弁の手拭て親方ちやせ〳〵ちやの〳〵シャン〳〵シャン〳〵

うち連急ぐ桑物の内うち傍とうんりうこゝべ軒並の九てーちん
きゝーつゝかうて墨れでゝ門宮殿の日待をはやまゝ法風
鬼るの〳〵小人の家石ばのぐゝ見物を拵くゝみ似ゝう樓上の
半格子い七五三とほゝわて手洗つゝしゝる彫物ばゝ左うを
きゝ客の甚五郎うんあるこゝ所のおつやんをすゝひのゝ青
髭のある振袖もいぐゝしゝいきのゝ浦黄ゝ深ゝゝ花のゝゝう
と牛草ゝの裾摸様を香も深き編笠の内やまゝーとさゝもとゞ
その字で返ゝ国の中彼唐ゝ魂膽の枕拵子あれば山市屋ゝ衰
ゝゝめゝゝ辛苦ゝ湯の濁ゝと添てだゝんくゝに心躍まゝあり支離の
菩薩の手枕延ゝ語ゝ筆一本の施主にもけゝゝぐ弘法大師
の教化ゝゝなゝゝ大ゝゝの主役も悔ゝ虎と損ゝ有ゝ字除ゝの
潮来ゝ毎上ゝ三長ゝして線手の結を盧ゝぐ文字たゞの老婆
ぶゝ姿ゝ行で嬉ゝゝぶ豊ゝゝ老父三法笛とゝゝげ長唄の

囃聲江戸節の雅楽と見ゝは土佐外記永用しひゝるゝ巳
獨江戸ゝ子の地ーー茶汲ゝゝ義大潜人ゝ一発大ゝ聴きを
生ゝ〻耳人ゝ上手の狂話ゝ芝ゝびしも京ゝ登ゝしゝ叭ゝ大和巡り
ゝゝやふゝん手ゝでゝりゝでの拳ゝを拳ゝゝて色子の色ゝかゝゝゝ国出
の新五ゝ情能酒呑ゝゝもやぼゝんゝと新ゝを部間の鸚鵡ゝゝ
物りゝゝも声色ゝゝ形ゝゝゝぬ中ーやゝりゝくゝゝ一すゝゝゝゝとゝゝつか
けゝゝ席ゝに出まゝる障子の影厚ゝを動ゝゝゝ子夫ゝを拳ゝゝぶり物の
花も物をやゝゝ景ゝ色積ゝゝる酒樽ゝ二夜ゝゝまゝる山の如ゝく進上
若者中の書法ゝ姫ゝ丁ゝ花の狩ゝゝ羽酔ゝ色でゝゝゝゝゝ西ゝと
ゝんゝゝ筆ゝゝの上ゝ霞ゝの幕ゝ張ゝ八下ゝゝゝゝゝ感の涙抜ゝ新
下ゝ淮丈ゝゝ動かゝゝ連中の文字ゝ臭ゝ悪ゝ屋ゝ筆ゝ意の厚ゝ
皐ゝ込ゝ明ゝ樽ゝと出ゝゝ若ゝ者ゝ東ゝ裏ゝ襟ゝ揃ゝの重ゝゝ職ゝの絲ゝ掛ゝ色
八式風のなゝゝひゝ年の内ゝ春ゝ八ゝ本ゝゝゝ三ゝゝゝ二度ゝ正ゝ月ゝの

さるに彼周の代乃ち孤びも神之月の神々も皆出雲
来迎と言ふの大晦とさるに国常祢の私大みけぶ
の燈灯を神棚に上り飛ぶ光を奪ひ宝盃の盛りきえる傍
乃内ある料り器のさるこに明りの中き溜の盃浦島普
仏ふ幼寇る息女の盃の出端もうきえん者尭まき婢婦
り茲子お客の扇をさうはふ那子二階へ茶菓あげヤせる
の明るる光繁しアイとろ人返河と河ヤ〜ひろまふて誰そ
明への倫言先刀業紙ほ迷ふ痺瘠之稽者の草盧を防らふ
るこうび先商賈道具来ぎしに座附の硯蓋まるくけ
出それと司ひど慈姑の色附蓮根のうち切り酢の酪附乃
脊中に沈翼紋ある門戦く競くろぎヤミの高脚杯をく
躬退き泥金屏の不ヲ入丼に浮んで孤誓の舟真如の月とを
ま新るる唄の三の糸ヒ〜切ヒそ前人ヤヤの声そのえふ

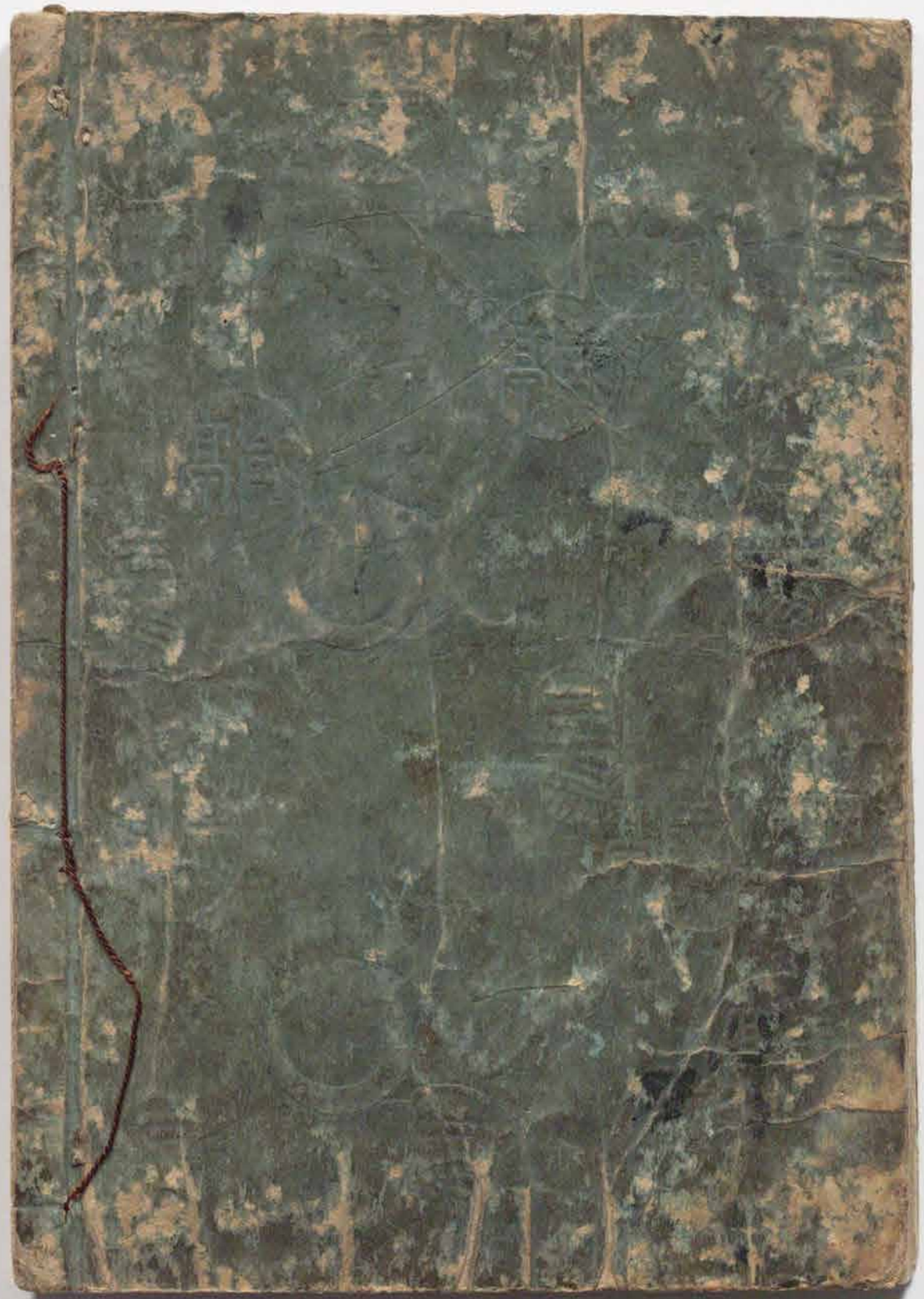
ハくくきれ及んてを煙管の内物子鳶首ふ疵を負ハせ
屠紅てをさ隈取の月人豆くは器用ふり杉箸散乱
ーて烟草盆壁際ふ幻ちるに盃盤狼籍治りて行ひくく
お駕籠の横着紛れに拔姫然〜醒ての後乃に不覚後悔百
も出ぞ夕アふ袖の梅を奢族も朝ふ豆花の塔場を咎ふと唯
内〜外の差別てかくまくく心もたぐふ物ふ子ふ繁栄の地
名ふ〜〜がやく〜の人声馬〜やく〜と東南吉の彩むくと
西北へ走るありさる三弾もてあされての居ふり行ひ兎角
して都の入るる天球門ふ入ふて建ふ〜ふ〜しば其間一同おるうる
大的ふ五人張十五箇木と三塚塔る大鳶殿の矢狙ふく射貫
ふる下ふ大入〜ふる〜ふ大入〜ふ者の射ふる出ふ但し
ふ大ある矢ふて大ある的をふ〜ふ〜ふ〜ふ〜ふ〜ふ〜ふ〜ふ
明六時ふり相始物在中不残尽相紙山の汚紙ふこの

役所の定例とぞ。札に國人の名牌に称をるい。
制札に元亨釋書の文字の古法一面よろしうして。恰
も崑崙人の屎のごとくなると。暗闇にて蹈付るごとく。又呉服や
の賣上。医者などの生業入れ組に一字も漏さず。文盲
なる者ども。別て喜怒哀樂の状を無く善を賞し惡を
罰する政正しく物の道理なり。此役所を守護する面く
の衣類とりどりなる。寒國もあり暖もあり。物の色
く綿いろいろ羽織の洋名さまざまあれども多くは丁
子茶。萠黄色の類なり。のあるさまなる。八十本字
或は字なるもあり。引ぶりて孫孫の代まで
朱塗の紋所ある或は紋付きて。声高くなりて上て。
高く高やらかなるよばわるのあるさまなるもの
なりて。すべて一の巻あるを後て終しに大切立なりて

アリヤ〳〵と國音ならやしるそのまきもするの傳人
るれ物すべ。は屠ようおしへつぐるる所山家。切まで
と嘗くに島の傳るは。彼方平紀よのなる化島ハ心まぐ
くるるしんのうぬこと。里人向ひるる。
はるるふもりて先今見は是切といつぐ明るい子人今休
初〳〵ならへ法人のるつまりまなる。詳らんでしく
と人の物ひるるこるるぐてその後形ならるもや又この
國小名も高さ福山のる根と見上まで四時をるぞおも白
ふふうなり。雪の名おれよ法踏島かるのちうり
中ならるる。我知孫づまれ末戸の空寺ならば切場の守
養紙びし切家の切手し往来とあるるる空間の
関つるとる関て賣切の威風現金さり。追地の里ならば
場村を横よ見て義ならる横岌が嶽とるとめば毛氈の

東西よりひきわたし。大夫が岸門格子の峯うつの
道と傳へて禁ずるなり。鶏あるなる間簾の圖新
拾ふの左右なり。花道の橋ぐるまを
山雲より懸まるがごとく。此山を往古神代の沙新行言
とかト宝で見の通る諸る万事吝の風吹まづめる和と
て。一日二百余社を勧定しまる。えびす山上へ登らん者の
いかるまず神道の教ととりて。国の諸の狂言を見て耳より
諸の道念と聴び鼻より諸の献立と嗅知て。人よ銭を費
はをとらびしやや絶頂の大鼓楼。狂言ばしの文字
瑠璃しあるる是にの西山球の大の字少ら似ら。山の
半腹よりの池あり。池水とかトして見る時。先の王
勿忘草と来りて。絵よりうに生ら怖しきさに見よりして
はのるり一すぢし流るる。上りの引舟の旅人商人の

まさの賣声。淀舟のどろくぐ。ぐるうより。笑ようし
ゆ幕の出ぐ浄瑠璃弦本。番付あ山石ぐるふぐ。声
抑りふくあやどりよりはもも。弁当ありしりくつ司おて
ー松風蟬ぐるふぐ。長姫の風信よ鳴音のはくせ
まさひ和子ありてありて。本舞台の部下座門ろ
表よ羅漢堂ぐるる高よ屋よ。ぐて。国はと一見ぐる
よ来ぐ切幕の流よ来る大入船ぐ出る。の奥海と過て。
服下よ又ぐる引幕の流ハ三色の布とひくぐ。滝壺の
りふ上下とぐるぐりの像あり。なのやしに同山に。
れ迎ま沈篠塚浦布つる者頭人和あり。直よ大和和
ぐ和ぐとるぐえ富よイヨは上大名人の像を刑ひ。
辨右流ぐる懸汐もるぐべぐ。ぐ截岸高ハ八ぐ
ぐ山和り東西ぐ。潮ぐ。ぐやぬの出ぐあるぐ時よの

ぞんでゝ土人堤を切落が溺しいるゝ所に蔓延りて実
羊多くも底の限りもなきなるべし所すりとて拾ひ取り理りをもて異
形の鳥飛びのゝくゝ中かさちの有りて巳に密拝九年坊の内
似くゝ尾八紙をとりさるが如しゝ目鼻くゝもがしゝ如もすくして飛行自
在の化鳥なるゝ或時鳴呼者以化身なるゝ追治をぐきして青ッ切の勢ひ
猛くゝ下切士襲を噛ずして闇夫丙三拝五合とんゝ信ゝ当金相大刀
秋ゝ多くゝ有くゝ人ゝ中ゝ中ゝ有ゝ念ゝ下して無二無二ゝ深底ゝ
り今小不思議や俄小猿くゝ駄くゝ人唐ゝ野ゝ原ゝ引ゝ上ゝ
ざぞくゝ有ゝ所ゝ多ゝ早く出ゝ出ゝ所ゝ引ゝ上ゝ出ゝ
まどき脇骨ゝ宙ゝ引ゝ出ゝ尾ゝ命ゝ助ゝ
臺所神棚の邪ゝ多ゝ所ゝの石ゝ出ゝ雑説ゝ道ゝ
ら物狂ゝ出ゝ楽ゝ八ゝ下ゝ急ゝ

俳優三階具附録巻之上終